

研究ノート

海外日蓮宗における英語読経事情を探るゝ神力品ゝ

川口智徳

1、はじめに

平成二十六年六月二十九日に日蓮宗北米開教百周年慶讃法要がロサンゼルスの日蓮宗米国別院で内野日総管長の導師により執り行われた。北米の教師や信徒が集結し、日本からも訪問団が多数参列された。前日も北米開教師や全国声明師会連合会が出仕し、日蓮宗北米開教区先師報恩法要が行われた。中でも、導師による勧請回向は、英語と日本語でなされ、献香・献華・対揚（誠敬段）・祖訓（報恩抄）は全て英語でなされる日英両語による画期的な法要であった。

北米では近年、英語でも読経がされ、日曜礼拝などでも取り入れられるようになってきた。その背景には、昨年度、日蓮宗開教布教センター（以下、NBIC）から出版された村野宣忠師による“THE LOTUS SUTRA”（一九七四年初版）がある。法華経の英訳の歴史を振り返ると、一八八四年にJan Hendrik Hern氏による翻訳“The Lotus of the True Law”を皮切りに、立正佼成会から、Gene Reeves氏による訳本や、近年では、創価学会からBurton Watson氏による訳本など実に六冊が挙げられる。しかしながら、法華経の解釈などにより、翻訳のされ方に若干のずれが生

じる。鳩摩羅什師がサンスクリット語から中国語へ翻訳したのが西暦四〇六年で、今から一六〇〇年以上前の話である。意識や注釈をする上では、言語の違いによるずれ（壁）をどうしても越えなければ成らない。鳩摩羅什師が翻訳される以前にも多くの先師が、サンスクリット語から法華経への翻訳を試みてきたのと同じように、正確に翻訳するには、膨大な労力が掛かると考えられる。殊更に、日本語から英語へ翻訳するときには、英語特有のキリスト教を基本とした単語を使わざるを得ないという問題がある。そのずれがどういったものであるかという事を比較対照し、どういった意図で翻訳されたものであるかを探求してみたいと考えたところである。

2、法華経翻訳本の紹介

今回、比較対象としたのは、筆者自身が開教師時代に愛用してきた村野宣忠師の法華経（NBICから発刊）と、Burton Watson氏翻訳の法華経である。筆者は、外国のメンバーにはどちらが理解しやすいのかという事を考えながらこの二冊を使用していた。例えば、如来寿量品に出てくる「靈鷲山」の翻訳も村野師は「Mt. Sacred Eagle Peak」と翻訳されているのに対し、Burton氏は「Holy Eagle Peak」と翻訳している。鷲山を表すEagle Peakは同じなのだが、靈を表すSacred（神が祭られた場所）とHoly（神聖なる場所）と違いがある。

残念なことに、SacredもHolyもキリスト教の用いる単語である。

「法、教え」という大切な言い回しでも、「The Law, Truth, Dharma Doctrine, teaching」など、驚くことに数バターンも存在する。それも、使う場所、文脈なども考慮して取捨選択しなければならないので、言語の壁を乗り越える苦勞が絶えない状況に追い込まれる。そこで、立正大学仏教学教授であった村野師が二十年以上の歳月を掛けて中国語の法華経より翻訳した日蓮宗版の法華経翻訳本と、アメリカニューヨーク州出身、京都大学中国語文学教授、コロンビア大学中国語教授であったBurton Watson氏が一九七三年～一九九三年まで同じく二十年の時を掛けて翻訳

しSGIから出版された最新の法華経翻訳本を選択した。

3、法華経比較対象 神力偈

◆諸仏救世者 住於大神通 為悦衆生故 現無量神力

諸仏救世者 大神通に住して 衆生を悦ばしめんが為の故に 無量の神力を現じたもう

The Buddhas, the World-Saviors, have great supernatural powers.

They display their immeasurable, supernatural powers in order to cause all living beings to rejoice. (By Senchu Murano)

The Buddhas, the Saviors of the world, abide in their great transcendental powers, and in order to please living beings they display immeasurable supernatural powers. (By Burton Watson)

村野師は、大神通も神力も「Supernatural Power」と翻訳し、Burton氏は「Transcendental」と訳し、神力を「Supernatural Power」と訳している。アメリカでは、一九世紀初めにトランセンデンタリズムという思想が広まった事に影響している。トランセンデンタリズムは「神」という超越的存在を個人の中に見て、「自立した自己の精神」との対話といった意味合いがある。キリスト教に由来しているので、ここで霊的な力という意味があっても、キリスト教の文言は出来る限り避けるべきではないだろうか。

World-savior, The Saviors of the world……救世主

Immeasurable……計る事が出来ない数、無量

Abide……留まる

In order to……～のために

◆舌相至梵天 身放無数光 為求仏道者 現此希有事

舌相梵天に至り 身より無数の光を放って 仏道を求むる者の為に 此の希有の事を現したもう

The tips of their tongues reach the Heaven of Brahman. Innumerable rays of light are emitted from their bodies.
For those who are seeking the enlightenment of the Buddhas do these things rarely to be seen. (By Senchu Murano)

Their tongues reach to the Brahma heaven, their bodies emit countless beams of light.

For the sake of those who seek the Buddha way they manifest these things that are rarely seen. (By Burton Watson)

仏道を求むるといふ箇所である部分を、村野師は「seeking the enlightenment of the Buddhas」と訳して、Burton氏は「seek the Buddha way」と訳している。仏道といふ觀念から、buddha wayと訳するのが良いかと考えるが、enlightenmentといふのは、悟りを表す単語であるので、意識するならば、仏の悟りを求めるという訳となるので、根底を考えるならば、enlightenmentを使用すべきではなからかと考える。

Brahma heaven……梵天 Ray, Beams……光

For the Sake of……の為に Rarely……希有

◆諸仏警歎声 及弾指之声 周聞十方国 地皆六種動

諸仏警歎の聲 及び弾指の聲 周く十方の国に聞えて 地皆六種に動ず

The sound of coughing of the Buddhas and the sound of their finger-snapping reverberate over the worlds of the ten quarters, and the ground [of those worlds] quakes in the six ways. (By Senchu Murano)

The sound of the Buddhas coughing, the sound of them snapping their fingers, is heard throughout the lands in the ten directions and the earth in all those lands moves in six ways. (By Burton Watson)

周聞十方国の翻訳である部分を、村野師は「reverberate over the worlds ten quarters = 十の方角に反響する」と訳し、Burton氏は「is heard throughout the lands is the ten directions = 十方に響き渡る」と翻訳されている。ここで、注目すべきは「reverberate over = 〈音が〉反響する、」と「is heard throughout = 響き渡る」といった違いである。言い回しが違うだけであるが、お経本であることを認識して頂きたい。一文一句が大切な仏さまの教えなので、翻訳本も仏さまの教えが説かれた経本でなければいけないと考える。

また、十方国を意味する「the world ten directions」と「the land ten quarters」も同じ「十方の世界」なのか「十方の陸地、国土」なのか、(「)まへへると直訳の意味まへへも違つてくる。

◆以仏滅度後 能持是經故 諸仏皆歡喜 現無量神力

仏の滅度の後に 能く是の經を持たんを以ての故に 諸仏皆歡喜して 無量の神力を現したもう

The Buddhas joyfully display their immeasurable, supernatural powers because [the Bodhisattvas from underground] [vow to] keep this sutra after my extinction. (By Senchu Murano)

Because after Buddha has passed into extinction there will be those who can uphold this sutra, the Buddha are all delighted and manifest immeasurable supernatural powers. (By Burton Watson)

この句では、まず喜ぶ事を表す用語を、村野師は「joyful」と翻訳しBurton氏は「delighted」と翻訳していることに着目していきたい。この句での喜びは、歡喜という意味があり、サンスクリット語では pramudita、仏教用語で大いなる喜びを表し喜びの最上級と意味する。「Joyful」は、うれしくこと、たのしくこと、また「Delighted」は、大いなる喜び、驚きで喜びいっぱいの様と言う事なので、喜びの最上級の「Delighted」を選択すべきではないか。

次に、示現や顕現を意味する用語を考えたい。村野師は「display」という単語を、Burton氏は「manifest」という単語を使用している。「display」というのは、表に出す、發揮するといったことを意味する単語であり、「manifest」という単語は、明らかにする、証明すると言う意味合いからもmanifestを使用した方が良いと考ええる。

Bodhisattvas from underground……地涌の菩薩

Extinction……滅する

◆ 囑累是経故 讚美受持者 於無量劫中 猶故不能尽

是の経を囑累せんが故に 受持の者を讚美すること 無量劫の中に於てすとも 猶故尽くすこと能わじ

Even if I praise for innumerable kalpas the keeper of this sutra, to whom it is to be transmitted, I cannot praise him highly enough. (By Senchu Murano)

Because they wish to entrust this sutra, they praise and extol the person who accepts and uphold it, and though they should do so for immeasurable kalpas they could never exhaust their praises. (By Burton Watson)

両者とも「kalpas」を使用している。Kalpasというのは、劫のサンスクリットKalpaを用いている。この単語に関しては、英語圏の方にもサンスクリットなので日本人同様、時を意味する単語である事を説明する必要があるのではないかと考える。次に、讚美するの部分を、村野師は「praise＝褒める」と訳し、Burton氏は「xtol＝称揚する」と訳している。「Xtol」という単語はPraiseの最上級の用語であるので、讚美を意味する単語としては適切ではないかと考える。

そして、この神力品で大切な囑累の訳語として村野師は、「Transmit＝後世に伝える」を使用しBurton氏は、「Entrust＝責任や任務を依託・委任する」という単語を使用している。仏さまより弘める為の委任を受けるので、Burton氏のEntrustを使用すべきではないだろうか。

また、受持を意味する単語として、村野師の「Keeper」とするだけかBurton氏「accepts and uphold」とするかを判断したときには、受けて持つので、accept and upholdと丁寧の説明するべきではないだろうか。

Exhaust……尽くす

◆是人之功德 無辺無有窮 如十方虚空 不可得辺際
是の人の功德は 無辺にして窮まりあることなけん 十方虚空の 辺際を得べからざるが如し

His merits are as limitless, as infinite, and as boundless as the skies of the worlds of the ten quarters. (By Senchu Murano)

The Benefits gained by such a person are boundless and inexhaustible, like the vast sky in the ten directions that no one can set a limit to. (By Burton Watson)

功德を意味する単語を村野師は、「merit ≡ 功績」Burton氏は、「benefit ≡ 利益」を使用している。利益というのは、*しりえき*とも読むが、仏教用語としては、*しりやく*と読む。*しりやく*とは、説明するまでもなく、神仏の力によって授かる利福という意味である。ここでは利益ではなく功德であり、功績は自分の利を考えずに人から認められる事である。功績の方が良いかと考えられるが、good deed (善行) や benevolence deed (慈悲ある行い) や「pious ≡ 敬虔な、信心深い」を用いて pious act, or deed ≡ 功德と訳す方がより良いのではないだろうか。

◆能持是經者 則為已見我 亦見多宝仏 及諸分身者 又見我今日 教化諸菩薩

能く是の經を持たん者は 則ち為れ已に我を見 亦多宝仏 及び諸の分身者を見

又我が今日 教化せる諸の菩薩を見るなり

Anyone who keeps this sutra will be able to see me.

He also will be able to see Many Treasures Buddha. [The Buddhas of] my replicas, and the Bodhisattvas whom I have taught today. (By Senchu Murano)

One who can uphold this sutra has in effect already seen me, and likewise has seen Many Treasures Buddha and the Buddhas that are emanations of my body. And he also sees me today as I teach and convert the Bodhisattvas. (By Burton Watson)

分身者を意味する単語を村野師は「replica」と訳し、Burton氏は「emanations of my body」と訳している。Replicaというのは、複製、模造を意味する単語であるので、仏さまより放たれた分身である存在を意味する「emanations of my body」を使用すべきではないかと考える。

また、教化を村野師は「taught」と訳し、Burton氏は「teach and convert」と訳している。化するという意味を活かすためには、教化はやはり、teach and convertと訳す方が良いと思われる。また、教化するという単語にはcivilizeもあるが、これも残念なことには神によって洗礼されたというキリスト教の単語である。あるいは、expound Ⅱ 詳しく説明をするという単語も考えられる。

◆能持是經者 令我及分身 滅度多宝仏 一切皆歡喜 十方現在仏 竝過去未來

亦見亦供養 亦令得歡喜

能く是の經を持たん者は 我及び分身 滅度の多宝仏をして 一切皆歡喜せしめ 十方現在の仏
竝に過去未來 亦は見亦は供養し 亦は歡喜することを得せしめん

Anyone who keeps this sutra will be able to cause me to rejoice. He also will be able to bring joy to [the Buddhas] of my replicas and also Many-Treasures Buddha who once passed away. He also will be able to see the present, past and future Buddhas of the ten quarters. Make offerings to them, and cause them to rejoice. (By Senchu Murano)

One who can uphold this sutra causes me and my emanations, and Many Treasures Buddha who has already entered extinction, all to be filled with joy. Many Treasures Buddha who has already entered extinction, all to be filled with joy. The Buddhas who are present in the ten directions and those of past and future ages. He will see them too, offer alms to them and cause them to be filled with joy. (By Burton Watson)

仏の滅度を、村野師は単に「Pass away = 滅する」と翻訳しており、Burton氏は「Enter Extinction = 入滅する」と訳されている。この滅度という用語であるが、神力偈の中でも様々な形で登場している。神力偈のなかでは他に「Pass into Extinction = 入滅する (By Burton Watson)」「Extinction = 滅する (By Senchu Murano)」「I have

passed into extinction = 私（仏）が入滅した（By Burton Watson）」と色々な種類の滅度が登場する。そもそも、涅槃というのは、サンスクリット語からの音写であるが、Nirvanaという違う単語が存在している。そして、ここでは経文にも寿量品（方便して涅槃を現す）のように涅槃という用語を使用していない。ちなみに、村野師は寿量品の部分を「show my nirvana」と訳し、Burton氏は「enter nirvana」と訳している。

同じ人物でも前後の文脈なども鑑みて異なる語をあてていると考えられるが、一々文々の精神からすれば統一すべきではないかとも考えられる。そもそもPass intoという「成る、入る」という意味からすれば、滅する状態にいるという状況を考えれば、「Pass into Extinction」が、丁寧で良い言い回しでないかと考えられる。

「Make offerings」 「offer alms」 ……供養する

「cause them to rejoice」 「cause them to be filled with joy」 ……歡喜する

◆諸仏坐道場 所得秘要法 能持是經者 不久亦當得

諸仏道場に坐して 得たまえる所の秘要の法 能く是の經を持たん者は
久しからずして亦當に得べし

The Buddhas sat at the place of enlightenment, and obtained the hidden core. Anyone who keeps this sutra will be able to obtain the same before long. (By Senchu Murano)

The secret essentials of the Law gained by the Buddhas how sat in the place of practice. One who can uphold this sutra will gain them too before long. (By Burton Watson)

秘要の法を意味する箇所を村野師は、「The hidden core」と訳し、Burton氏は「The secret essentials of the Law」と訳している。村野師の訳は、直訳すると、「隠れた芯なる物」となる。一方Burton氏は、Lawが付随しているので、隠された必要不可欠な法となる。文脈からもある程度は読み取れるも、言うまでもなく秘要の法を確実に訳しているのは、Burton氏の訳となる。

また、道場を意味する箇所を村野師は、「the place of enlightenment」と訳して、Burton氏は、「the place of practice」と訳している。文脈から諸々の仏が座す所なので、悟りを得るところであろうと汲み取れるのであるが、burton氏の修行する場所と訳すよりも、村野師の悟りを得られる場所と翻訳した方が懇切丁寧である事から、ここでは村野師の enlightenment を付け加えた方がより理解度は高いであろう。

◆能持是経者 於諸法之義 名字及言辞 樂説無窮尽 如風於空中 一切無障礙

能く是の経を持たん者は 諸法の義 名字及び言辞に於て 樂説窮尽なきこと

風の空中に於て 一切障碍なきが如くならん

Anyone who keeps this sutra will be able to expound the meanings of the teachings, and the names and words [of this sutra]. Their eloquence will be as boundless and as unhindered as the wind in the sky. (By Senchu Murano)

One who can uphold this sutra will delight in endlessly expounding the principles of the various doctrines and their names and phrases, like a wind in the open sky moving everywhere without hindrance or block. (By Burton Watson)

諸法の義を意味する部分を村野師は、「the meanings of the teachings」Burton氏は「principle of the various doctrines」と用いている。Meaningとprincipleは意味と原則、teachingとdoctrineは、教えと教義。あえて、Burton氏はこの箇所をDoctrineとした事からは、Burton氏が翻訳された法華経の前書きにも書かれていた通り、中国語教授としての漢字への拘りが伺える。

また、如風於空中 一切無障碍の箇所も村野師は、「Their eloquence will be as boundless and as unhindered as the wind in the sky = これらの雄弁さは、空の風と同じくらい果てしなくて、なにも遮る物はないです」と翻訳し、Burton氏は「like a wind in the open sky moving everywhere without hindrance or block. = 妨害や障害物がなご」とは、開かれた空で何処にでも行ける風のようにある」と訳した。一つの文章にしてもこれだけ表現が違ふといふことは意識や私訳も付け加えないといけないのが伺える。

◆ 於如来滅後 知仏所説経 因縁及次第 随義如実説

如来の滅後に於て 仏の所説の経の 因縁及び次第を知って 義に随って実の如く説かん

Anyone who understands why the Buddhas expound [many] sutra, who knows the position [of this sutra in the series of sutra], and who expounds it after my extinction according to its true meaning. (By Senchu Murano)

After the thus Come One has passed into extinction, this person will know the sutras preached by the Buddha, their causes and conditions and their proper sequence, and will preach them truthfully in accordance with principle. (By Burton Watson)

右記の文節は、法華經の教えが順序立てて説かれたものであるという事を理解した者は、未来に於いてその教えを説いていくだろうという意味であるが、村野師は「何故仏さまが沢山の教えをお説きに成られたのか、そして、沢山の教典がある中で法華經の位置づけがどのような所にあるのかを理解した者は、真実の意味に従い、私の滅度の後にこの教えを弘めるだろう」というのに対して、Burton氏は、「如来の滅度の後に、仏さまによって説かれた教えを理解出来た者は、法華經の発生原因と次第を理解出来、原理に従って真実に法を説く事が出来るであろう」と直訳が二つとも似ても似つかずの部分がある。村野師の方は、「」付けで「many, series of sutra」という言葉を添えて、四十余年未顕真実、五時八教が根底にある事を暗示していて、より深い内容となっている。先ほどの箇所でもそうであったのだが、諸法や所説の經であるが、村野師の方は「」付けで法華經を意味していて、単数形を使用しているのに対して、Burton氏はDoctrinesやsuttasやthemに代表されるように全て複数形を使用している。箇所にも依りけりであるが、法華經以前の經文を表すときは、複数形を用いて、法華經オンリーを表すときは、単数形で表す必要があると考えられる。未来に説かれていく教義は法華經なので、その箇所は単数形を使用すべきではないかと考えられる。

また、村野師は「Buddhas」と訳してゐるのに対して、Burton氏は「the thus Come One」と訳している。このことは、存在は同一でも漢字から訳したというBurton氏の意向が感じられ、如来と仏の区別を付けているものと考えられる。

According to, In accordance with……に従つて Proper Sequence……順序。次第

Preach……説教・伝道する(キリスト教用語)

◆如日月光明 能除諸幽冥 斯人行世間 能滅衆生闇

日月の光明の 能く諸の幽冥を除くが如く 斯の人世間に行じて 能く衆生の闇を滅し

Will be able to eliminate the darkness of the living beings of the worlds where he walk about, just as the light of the sun and the moon eliminates all darkness. (By Senchu Murano)

As the light of the sun and moon can banish all obscurity and gloom, so this person as he passes through the world can wipe out the darkness of living beings, (By Burton Watson)

我々も普段拝読する日月偈の部分であるが、「幽冥を除く」の「除く」と、「衆生の闇を滅する」の「滅する」は、やはり使い分けるべきではないかと考える。村野師は両方とも「eliminate」を使用しており、Burton氏は「除く」を「banish」追放する」を使用し、「滅する」を「wipe out」掃する、絶滅する」を使用している。

darkness of living beings……衆生の闇 all obscurity and gloom……すべての幽冥

walk about……ゴールのない旅路、(ソコ)では弘道の旅路を意味するのでは

passes through……通り抜ける

◆教無量菩薩 畢竟住一乘

無量の菩薩をして 畢竟して一乘に住せしめん

He will be able to cause innumerable Bodhisatvas to dwel finally in the One Vehicle. (By Senchu Murano)

Causing immeasurable numbers of bodhisattvas in the end to dwell in the single vehicle. (By Burton Watson)

表記の違いだけであるが、一乗という表記に二パターンある事に疑問に感じるところである。村野師の方は、「The One Vehicle」と訳し、Burton氏の方は「The Single Vehicle」と訳している。Oneというのは、一つという意味もあるが、唯一という意味もある。一方、Singleには、様々な意味があるが、たった一つという意味合いもある。しかしながら、人によっては、Singleという表記は、一人用という意味合いもあるので、受け取られ方としては大乘＝一乗というように受け取って貰う事が難しいかも知れない。ここで、使うならば、文脈からも読み取れる事であるが、「The Only One Vehicle [to Enlightenment]」として、「悟りへの唯一の乗り物」と表記した方が良いかと考える。

Dwell……居住する、住する

◆是故有智者 聞此功德利

是の故に智あらん者 此の功德の利を聞いて

Therefore, the man of wisdom who hears the benefits of these merits, and the man of wisdom, who keeps this sutra. (By Senchu Murano)

Therefore a person of wisdom hearing how keen are the benefits to be gained. (By Burton Watson)

前述した事であるが、「benefit」と「merit」の違いであるが、同じくようやく終着を迎えようとしている。なぜ

ならば、功德の利という用語が出てきているからである。村野師は「benefits of these merits」と翻訳されている。Burton氏はやはり、功德をbenefitと使っている。村野師が使い分けられているので、やはり村野師の中では功德と利益との使い分けをなされているのが伺える。

Wisdom……智慧、Keen……洞察力のある様

◆於我滅度後 応受持斯經 是人於仏道 決定無有疑
我が滅度の後に於て 斯の經を受持すべし 是の人仏道に於て 決定して疑あることなけん

And the man of wisdom, who keeps this sutra, after my extinction, will be able to attain the enlightenment of the Buddha definitely and doubtlessly. (By Senchu Murano)

Such a person assuredly and without doubt will attain the Buddha way. (By Burton Watson)

前述したようにあるが、*ソノジノモ*仏道を、村野師は「attain the enlightenment of the Buddha」と翻訳し、Burton氏は「attain the Buddha way.」と訳している事を指摘する。*ソノジノモ*やはり悟りを意味するenlightenmentを使用すべきではなにかと考えられる。

Definitely, Assuredly……決定

Doubtlessly, without doubt……疑いなく

3、まとめ

上記にて紹介した神力品で村野師とBurton氏の二冊を比較対照しただけでも大きな違いやずれが明確となった。今回は偈文だけでなく、また神力品全てであったり、ましてや法華経二十八品となると、その量は膨大である。序説にも記述した事であるが、今までにサンسكريットを底本として英語へ翻訳された翻訳書が、二冊 (Jan Hendrik Kern 訳、Leon Hurvitz 訳)、サンسكريット語辞典を使用した翻訳書一冊 (久保継成・湯山明訳)、鳩摩羅什師が訳された中国語から英語へ訳された法華経が三冊と実に六冊の英語翻訳版法華経が世の中に存在する。今後、日蓮聖人門下として文字の大切さは、日蓮聖人が『法蓮抄』で示しになられているお言葉を大切にしなければならぬのではないだろうか。

「今の法華経の文字は皆生身の仏なり。我等は肉眼なれば文字と見る也。(略) 此の法華経の文字は肉眼は(略) 黒色と見る。二乗は虚空と見、菩薩は種種の色と見、仏種純熟せる人は仏と見奉る」(『定遺』九三四〜九五七頁)

つまり、法華経の一字一文字が正しく生身の仏さまと感じて大切に拝読しなければいけないとお示しなのである。法華経の一文一句が大切であるので、教えもさることながら日本の日蓮宗としての我々が読む法華経は六万九千三百八十四文字の一つ一つが大事なと同様に、英語版は、その文字に治まらないとしても一つ一つの文字をも大切にしていけることが寛容ではないのだろうか。今後、イタリア語、フランス語、ポルトガル語へ翻訳され、グローバルに法華経が発信されていくので、現地教師による編纂会議を通じて、一つ一つの文言を正しくして、国際布教師が間違いない統一した用語を発信できるようにしなければならないのではないだろうか。また、お釈迦さま、鳩摩羅什師、日蓮大聖人の報恩をくみ取り、お釈迦さまが末法の人々に残して下さった法華経を大切に扱っていかねばならないのではないだろうか。

【参考文献】

- 『昭和定本 日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編
『THE LOTUS SUTRA』村野宣忠著
『THE LOTUS SUTRA』Burton Watson著
『真訓対照 法華三部経』三木随法著